

# 那珂川町

町勢要覧  
2012

Nakagawa Town Handbook 2012



八溝山系の豊かな恵みが  
人のこころを癒すまち



# 町勢要覧 2012 那珂川町

Nakagawa Town Handbook 2012

清流那珂川をいただき、なだらかな山々につつまれた  
那珂川町の景色は、日本人のこころの原風景そのもの。  
訪れた人が、みな懐かしむまち。

## CONTENTS

### Master of NAKAGAWA

那珂川町を極めよう！	2
遊び 自然を五感で感じよ	3
自然と一体化せよ	4
歴史 水戸光圀公との縁に注目	6
古代からの人々の息吹を感じる	8
自然 緑の中で深呼吸すべし	10
憩い 自然の恵みを満喫する	12
美術 江戸庶民の心意気に触れる	14
身近な『美』を愛でる	16
特産 脈々と受け継がれるなかがわブランド	18
新たなまちの名物	20
<b>NAKAGAWA イラスト + 農産物直売所MAP</b>	21
那珂川町 歳時記 + 花こよみ	22
<b>那珂川町総合振興計画</b>	24
安全・快適なユニバーサルデザインのまちづくり	26
笑顔あふれる元気で心あたたかなまちづくり	28
人を育て未来を拓くまちづくり	30
人がにぎわい活力あるまちづくり	32
豊かな自然と共生するまちづくり	34
改革への道 - 行財政改革の推進、住民参加・協働の推進	36

# 「豊かな自然と文化にはぐくまれ やさしさと活力に満ちたまちづくり」

Developing a Town Brimming With Kindness and Vitality  
While Nurturing Our Abundant Natural & Cultural Heritage



那珂川町  
町長 福島 泰夫  
Mayor of Nakagawa-machi  
Yasuo Fukushima

那珂川町は、栃木県の北東部に位置する人口約1万8千人の町です。町の中央を流れる那珂川は関東でも有数の清流で、鮎釣りをされる方には馴染み深い川ではないでしょうか。その那珂川を町名に冠した「那珂川町」は平成17年10月に馬頭町と小川町との合併により誕生しました。清らかな流れとこれを取り囲む里山が織り成す自然豊かな町です。

東日本大震災により再認識された家族の「絆」、地域の「助け合いの精神」が当たり前のように残っている那珂川町。そんな地域の特性を生かして、那珂川町が有する人、自然、歴史、文化、特産品など貴重な地域資源に新たな輝きを与えられるよう、町民と行政との「協働」による「町民参画のまちづくり」を目指し、さまざまな施策に取り組んで参ります。

この町勢要覧が、那珂川町の現状と魅力、そして未来への挑戦をご理解いただくための一助となれば幸いです。

With a population of 18,000, Nakagawa-machi is located in northeastern Tochigi Prefecture. The Nakagawa River, running through the center of town, is one of the clearest rivers in the Kanto area, and is popular for fishing for *ayu* (Japanese sweetfish). Proudly adopting the name of the river as the town name, Nakagawa-machi was born in October 2005 by combining the towns of Bato-machi and Ogawa-machi. The clear river current and the verdant hills which surround it are woven together into a town of rich natural beauty.

Family “bonds” and “the spirit of community support,” values rediscovered in the Great Eastern Japan Earthquake, are still an everyday part of life in Nakagawa-machi. To utilize the local characteristics of a community such as this, we are taking a variety of measures with the goal of “citizen-involved town planning” through “collaboration” in order to bestow a fresh brilliance to our invaluable local human, natural, historical and cultural resources and local products.

We hope this town handbook helps you to understand the current conditions in and attractive features of Nakagawa-machi, and the future challenges facing us.

## NAKAGAWA-MAP

### ●那珂川町の位置

本町は栃木県の東北東に位置し、北部は大田原市、南部は那須烏山市、西部はさくら市、東部は茨城県大子町、常陸大宮市と接しています。





高瀬観光やな(谷田)

Master of

Fun

遊び

History

歴史

Nature

自然

Rest

憩い

Art

美術

Products

特産

# NAKAGAWA

那珂川町を極めよう！

## 那珂川町の遊びの極意

## 自然を五感で感じよ

Appreciate nature with all five senses



アユ釣りに興じる人たち

那珂川は町名の示す通り、那珂川町にとって切っても切れない関係です。昔から変わらぬその豊かな流れは「関東の四万十川」と言われ、特に釣り人たちには「天然湖上鮎」の川として有名です。毎年6月1日には「鮎釣り解禁日」を待ちかねていた太公望が各地から集まり、支流の武茂川とともに川面は大いににぎわいます。8月上旬になると「やな漁」が解禁となり、「観光やな」が設置され、やなにあがってきた鮎を素手で捕まえようとはしゃぐ子どもたちや観光客の姿は、那珂川町の夏の風物詩の一つとなっています。

そんな風に思い思いに那珂川を堪能し、町内の川魚店や観光やなの軒先で、塩焼きとなった鮎をほおばれば、那珂川を五感で感じられることでしょう。



## アユ釣りの

岡崎 孝さん  
(谷田)

アユ釣りをする達人

2006年に行われたダイワ鮎マスターズにおいて全国大会優勝という偉業をなしとげ、現在は本業のかたわらグローブライド(元ダイワ精工)のフィールドスタッフをしている岡崎さん。5歳から釣りを始め、アユ釣りは16歳の頃からやっていますが、転機が訪れたのは鬼怒川でダイワ鮎マスターズ第1回大会が開かれたとき。地元勢が勝てなかったため、大会で勝つためにクラブが作られました。そこに入会してお互いのいいところを吸収し、悪かったところは反省し合えたことが大きかったといいます。

常に第一人者であり続ける秘訣は「おとりを丁寧にとるのももちろんですが、常にどうすれば釣れるかを考えています。毎年川の状況は変わります。遡上してくるアユ違って違う。だから以前そのポイントが釣れたからといって、今年もいいとは限らないんです。」

「那珂川は日本一なんです。」と語る岡崎さん。「環境の良さもさることながら、首都圏から近く、車で来て川岸へおりのも簡単な川は他にはない。ただ、豊かな環境に甘えず、釣り人口を増やす努力をしなければいけないと思う。そうすれば訪れる人が増え、ゆくゆくは町の発展につながります。」ダイワでは初心者講習会でマナーなどを教えますが、「大事なことは一番最初にいかに釣らせるか。そのために釣れるポイントに連れて行き、できるだけマンツーマンで指導する。すると4~5時間で10匹は釣れる。釣れれば楽しいから続けてくれるでしょ。」他にも「『海の家』があるんだから『川の家』があってもいいよね。お父さんはアユ釣り、お母さんと子どもたちは川遊びができる施設とか…」釣りをそして那珂川を人一倍愛する岡崎さんのアイデアはつきません。

## 那珂川町の遊びの極意

## 自然と一体化せよ

Integrating with nature

恵みの川「那珂川」を包む緑豊かな山々。その丘陵地や山間地には地形を活かしたゴルフ場やキャンプ場などのスポーツ&レジャー施設が点在し、子どもから高齢者まで誰でも気軽に大自然とふれあうことができます。

「ばとうホースランド」は那珂川を眼下に、日光や那須の山々を見渡しながら乗馬が楽しめる施設です。親子で成馬に乗れる初心者向けの「引き馬コース」、指導者がついてさまざまな乗馬テクニックを教えてくれる「体験コース」と「レッスンコース」、自由に乗馬を楽しみたい経験者向けの「フリーコース」があり、乗馬の楽しさを訪れる人々に伝えています。



ばとうホースランド

## 川遊びの

佐々木 慎一さん  
(小川)

地元栃木県立馬頭高校水産科の教員である佐々木さんは、川の生態調査を行うための手段として、カヌーの指導を始めました。ご自身は「カヌーは学生の頃少しばかりやっただけで、本格的に始めたのは5年前に教員になってから。」と謙遜していますが、現在では町の生涯学習課が主催するネイチャークラブのサマーキャンプにボランティアとして協力するなど、川に関する活動にひっぱりだこの状態です。

キャンプのボランティアでは、普段は教えられる立場の高校生が、小中学生に教える立場になり、佐々木さんはそれを見守ります。「危険な時はすぐ助けられるよう準備していますが、それ以外は生徒に任せます。そうすると高校生なりにどうすればいいのか考えるのです。」

子どもたちに川遊びを教える上で、事故が起きないよ



高校生を指導する達人

うに気をつけることが第一ですが、だからといって危険を口で説明するだけでは解らない。自分で経験してこそ、子どもたちは成長するのだそうです。「遊びはハラハラ、ドキドキする位がおもしろい。体験活動を通して危険な行為を見極める力をつけてほしい。」というのが佐々木さんの考えです。

生まれも育ちも那珂川町の佐々木さんは、「川が好きで川遊びをしていたら…」と、ごく自然に現在の活動に結びついているようです。那珂川町の魅力を聞いたところ、「川と一緒に生活する文化がまだ残っているところ」だとか。そしてこの文化を絶やさないためにも、生徒たちの中に将来水産関係の道に進む人が出てくれればと期待しつつ、これからも川遊びの楽しさ、那珂川町の自然の素晴らしさを伝えるためにがんばりたいと話していました。



Master of         
**NAKAGAWA**

那珂川町を極めよう!



まほろばキャンプ場

「まほろばキャンプ場」は、那珂川の支流「<sup>ほうき</sup>帯川」のほとりにあり、敷地内にオートサイトが8区画、テントサイトが9区画、水洗トイレや炊事場、シャワーなども完備され、気候のいい時期にはたくさんの人々でにぎわいます。

「青少年旅行村」は、八溝県立自然公園内の高台にあり、ナラやクヌギの林に囲まれた広大な敷地内には、バンガローなどが整備され、さまざまな機会に利用されています。また、ここから望む那珂川の景色は素晴らしく、「栃木の景勝百選」に選ばれています。

山に川に、自然と一体となって楽しめば、那珂川町の、そして自分の本来の姿を再発見できることでしょう。



青少年旅行村バンガロー



ゴルフ場

那珂川町の歴史の極意

## 水戸光圀公との縁に注目

Our bond with Sir Mitsukuni Tokugawa



馬頭院

馬頭観世音菩薩立像

馬頭院の枝垂栗  
(県指定天然記念物)

乾徳寺

「乾徳寺」は、中世、この地に城を築き、長きに渡って統治した武茂氏一族の菩提寺です。室町時代の様式を伝える山門は武茂城の大手門を移築したものと伝えられ、境内にある一族の墓碑などとともに、人の世の栄枯盛衰をしのばせます。

推古天皇12年(604)の創建と伝えられる「三和神社」は、『続日本後紀』によると承和5年(838)には官社となって国司の奉幣社(国司が神に幣束を奉げる)となっていたようです。

毎年正月14日の夜には鳥越神事(どんと焼き)が行われ多くの人でにぎわいます。

那珂川町の歴史を語る上で、黄門様として馴染みの深い第2代水戸藩主・徳川光圀公ぬきにはできません。当時この地は水戸藩の領地でした。馬頭という地名の由来となった馬頭観世音菩薩を本尊とする「馬頭院」は、境内に光圀公が手植えしたとされる「枝垂栗」の巨木が今も残るゆかりの寺です。この木は年に3度開花したと伝えられていることから、地元では“三度栗”と呼ばれています。

本尊の馬頭観世音菩薩は、白馬を頭に載せているところから馬頭観音と呼ばれています。三面六臂の木彫金箔立像で、江戸時代の作と伝えられています。



三和神社

# 昔話の



渡辺 恵子さん  
(小川)



昔話を身振り手振りを交えながら語る達人

ボランティアとして、幼稚園やデイサービス施設などで語り部の活動をしている渡辺さん。活動を始めたきっかけは、シルバー大学で語り部養成講座があることを知ったこと。当時は保育園に勤めていたこともあり、子ども達に聞かせてあげられたらいいなという軽い気持ちで受講しました。その後「どうせなら地元でもやったらどうだい？」との引き合いがあり、希望者を募り、講習会を開くなどの準備期間を経て、現在の「まほろばがたり」という語り部の会の立ち上げとなりました。

メンバーは26歳から91歳と幅広い年齢層で、職業も性別も違いますが、「地元の話をもとに地元の言葉で」をキャッチフレーズに、標準語では表現できないニュアンスを伝えようと地元の方言を使っています。「むか～し、むかしあったんだと…」から始まって「…おしまい。」で終わるそのスタイルは、話す前にふらふらしていた子どもでもぴた

っと話に集中し、最後は「あ～面白かった！」となると渡辺さんは言います。

活動をする上で、地元に残る昔話を少しでも語り継いでいくことはもちろんですが、地域の人や子どもからお年寄りまで世代を超えた触れ合いも魅力の一つです。いろいろな方との触れ合い、活動を通して逆にパワーをいただいていると感じることもあるそうです。

渡辺さんはこれからも聞く人にほっとしてもらえるような語りができると考えています。現在、昔話のレポーターは20～30ありますが、まだまだ埋もれている地元の話があると思うので、それを取材して再話\*していきたくと話していました。

\*昔話・伝説など、言い伝えられたことを、わかりやすい話に作り上げること。



唐の御所(国指定史跡)

那珂川町には他にも各時代ごとに重要な史跡が残されています。

なかでも古墳時代後期の横穴墓で、平将門ゆかりの姫がこの地に隠棲した際、唐土帝王の后であると名乗ったことからこの名が付いた「唐の御所」は、国指定史跡となっています。



健武山神社

奈良時代からこの地域は砂金の産地として知られ、その砂金は「那須のゆりがね」として高く評価されていました。東大寺大仏建立の際に金を献上するなど、金による長年の国家への貢献により承和2年(835)、「健武山神社」に従五位下の位が授けられました。



静神社

「鷲子山上神社」は平安時代[大同2年(807)]の創建と言われる古社で、標高460m余りの「鷲子山」山頂にあり、本殿の彫刻や装飾の豊かさは他に類のない貴重なものとして知られています。

「武茂城」は、武茂氏の祖・泰宗が築城したと伝えられ、城跡の中腹には「静神社」が鎮座しています。



諏訪神社

江戸時代の寛永18年(1641)に建立された「諏訪神社」は、信州から分霊されたもので、本殿に施された精巧華麗な彫刻が有名です。



## 那珂川町の歴史の極意

## 古代からの人々の息吹を感じる

Sense the spirit of the generations

那珂川流域には東日本でも極めて重要な古墳として注目されている「那須八幡塚古墳群」(国指定史跡)をはじめ、1本の銅印をきっかけに発掘調査が始まり、国内最大規模の官衙(郡役所)跡であることが明らかになった「那須官衙遺跡」(国指定史跡)や、関東地方で最も早い時期に造られたとされる「駒形大塚古墳」(国指定史跡)等、たくさんの文化遺産が残されています。これらの遺産と環境を保存するために栃木県が整備したのが「なす風土記の丘資料館」です。館内には、「甦る那須古代文化の軌跡」をテーマに、縄文時代から奈良、平安時代(まがたま)にわたり特色ある那須の歴史と文化を紹介するとともに、「火起こし」や「勾玉づくり」などの体験講座もあります。



なす風土記の丘資料館

## 太鼓の

本棒 浩明さん  
(小川)

ステージで熱演する達人(前列左)

旧小川町の町制施行60周年記念事業の一環として『那須小川まほろば太鼓』が披露され、その当時から携わっている本棒さん。平成23年に15周年を迎えた『那須小川まほろば太鼓保存会』には現在25名が所属していますが、なかには幼稚園の年長から始めて現在高校生のメンバーもいます。まほろば太鼓は、旧町で交流のあった秋田県美郷町(旧仙南村)の菅蒲太鼓(しょうぶたいこ)を手本としており、毎年3月には現地で行われる太鼓講習会に参加し、交流を深めています。

本棒さんご自身は、打ち手としてだけでなく指導する立場でもあり、週に2回の練習にもなるべく参加するようにしています。「指導する側としては自分から積極的に練習・演奏すること、大きな声を出すことを教えています。ウチの会では習った通りにしか叩けない人がまだ多

い。自分で考えたことを自由に、できる・できないはともかく叩いてみる姿勢が大切です。そのほうが楽しいし、理想ですね。」

まほろば太鼓は、町内を中心に年間20ステージほどの演奏活動を行っています。「楽しんでやっているので苦労はないが、最近体力が衰えてきたので維持できるようにしたいです。何より観ていただいた方から『良かったよ、感動した。』と言われると疲れも吹き飛びます。」

平成24年度から、わかあゆ保育園で週1回太鼓を教える計画もあり、それを機会に新しく入会する人がいればと話す本棒さん。「始めた当初は100年、200年続けて町の郷土伝統芸能として保存継承していきたいと目標を掲げていたので、それを目指してがんばりたい。自分も70歳までは無理かもしれないけど、長く叩きたいですね。」



那須官衙遺跡/銅印



駒形大塚古墳/画文帯四獣鏡  
がもんたいししじゅうぎょう



なすかんがいせき  
那須官衙遺跡 (国指定史跡)



こまがたおおつかこふん  
駒形大塚古墳 (国指定史跡)



なすはちまんづかこふんぐん  
那須八幡塚古墳群 (国指定史跡)



なすはちまんづかこふんぐん  
那須八幡塚古墳群/雙鳳鏡  
きほうぎょう



那須神田城跡 (国指定史跡)



民俗資料館  
(永森家復元民家)



たくみやかた  
匠の館 (小口家復元民家)\*

\*平成22年度・観光写真コンテスト入選作品「春の彩」から

# Master of NAKAGAWA

那珂川町を極めよう!

中世から近世にかけてのものとしては、那須氏の祖である須藤権守貞信の築城によるものとされ、源平屋島の合戦で扇を射落とした那須与一宗隆の生誕の地と伝えられている「那須神田城跡」(国指定史跡)。

江戸時代の様式を今に伝える復元民家である、「民俗資料館」(永森家復元民家)や「匠の館」(小口家復元民家)では、農具や生活用品など、この地に伝わる民俗資料を数多く展示しており、当時の暮らしを垣間見ることができます。休憩の場としても利用でき、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。

那珂川町の古代から脈々と続く人々の営み。貴重な遺産に触れ、思いを馳せれば、先人達の息吹を感じることができるでしょう。

## 那珂川町の自然の極意

## 緑の中で深呼吸すべし

*Take a deep breath among the lush greenery*



鷲子山上神社の千年杉

八溝山系の豊かな山々、生命力満ちあふれる清流那珂川が流れる本町は、緑と水に抱かれた美しい町です。

その豊かな自然は、遙か昔からこの地を見守っています。「とちぎの名木百選」にも選ばれている推定樹齢1000年と言われる「鷲子山上神社の千年杉」は県境の奥深い山にそびえ立ち、また「観音寺のしだれ桜」は戦国時代の天文3年（1534）に、観音寺開山を記念して、地元の檀家が植えたものと伝えられています。年間を通して町のあちらこちらで我々の目を楽しませてくれる花々は、その可憐な姿で、新たな季節の訪れを教えてくれます。

春夏秋冬、様々な顔を見せてくれる那珂川町の自然。でも1年を通して変わらないものをご存知ですか？それは訪れた人がみな実感する「空気」の美味しさ。豊かな自然の中に身を置いて深呼吸してみれば、その澄んだ空気は、一服の清涼剤のようにも感じられ、現代人の疲れた心と体をリフレッシュしてくれることでしょう。



イワウチワ群生地<sup>※1</sup>



カタクリ山公園<sup>※2</sup>

※1 平成21年度・観光写真コンテスト入選作品「いろうちわ群生地」 ※2 平成22年度・観光写真コンテスト入選作品「カタクリの里 散策」



観音寺のしだれ桜

うるし か  
漆掻きの



秋田 稔さん  
(健武)



掻きがまで漆をすくってタカツツポ(漆を入れる器)に入れる達人

漆の生産者として日本で一番古い家柄の四代目にあたるという秋田さんは、国産漆の約1割にあたる量を生産しています。子どもの頃は遠く輪島(石川県)からも人を頼んで漆を掻くほど、大規模に行っていましたが、現在、漆掻きをする人は栃木県で秋田さんただ1人です。

「シーズン中(5月~11月)は休みなしで、天気の良い日は、朝暗いうちから、夕方暗くなるまでやっています。1本の木ごとに5日周期で回ります。このパターンを維持しないと大変です。早くても漆は水のようにだし、遅いと油のように垂れてしまうからです。ただ、シーズン以外は自由なので、それを自分に言い聞かせてがんばっています。」

秋田さんの強みは、平成元年頃から栃木や茨城の50軒くらいの農家に頼んで、休耕田に漆の木を植えてもらったことです。漆を掻く木を自前で調達することができるため、年

間700本掻くことが可能だそうです。

「大変な仕事なのでなかなか若い人にはできないですね。」と後継者不足を憂っていますが、欧米やアジア各国の留学生が研究に訪れたり、TV局の取材を受けるなど充実した毎日ようです。およそ1300年の歴史のある神宮式年遷宮(伊勢神宮)に漆を献上されたこともあるようで、2011年にはそれらの功績が認められ日本漆工協会から、優秀漆工技術者に選ばれました。秋田さんは、「漆は日本の伝統。できる限り漆の採取を続けたい。」と漆掻きへの思いを強くしていました。



伊勢神宮の関係者に見守られながら漆を掻く